

## 重症者、第2波超え

新型コロナウイルスの感染が急拡大する中、19日に開かれた専門家の会合では、高齢の感染者や重症者が増えている厳しい状況が報告された。冬に向けてさらに深刻化する恐れがあるものの、政府は感染者を減らすための強い対策を打ち出せないでいる。▼1面参照

## 「対応が必要」専門家

今の感染拡大の要因について、専門家組織の会合後、の見会で、座長の臨田隆子、国立感染症研究所長は、基本的な感染予防対策がしっかり行われていない▽人の移動の増加▽気温の低下の

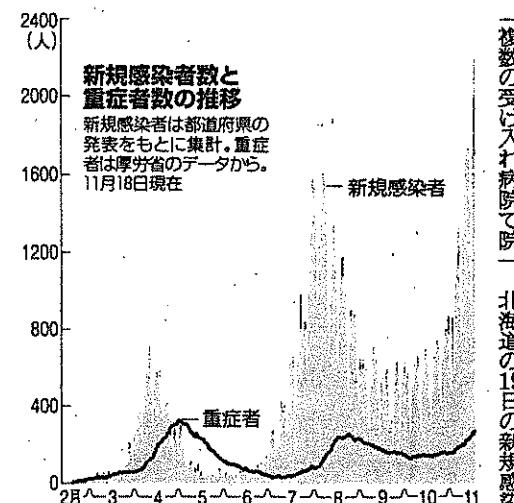
## 「緊急事態」上回る可能性

部の地域では、「行動制限するような状況だ」と話した。メンバーの尾身茂氏も「何かしら対応が必要なのではない」と話し、20日に開催予定の政府の分科会で対策を提言する考えを明らかにした。

9日は感染者の急増を受け、専門家組織のメンバーが多く参加する分科会が政府に対する強化を求める緊急提言を出した。「急速な感染拡大至る可能性が十分ある」と、分科会では会長を務める尾身氏が危機感をあらわにした。

だが、19日の会合の評価

今後の見通しついで、順天堂大の堀越教授（感染制御学）は「いままだ東京都内だけで1日1千人の新規感染者もあり得る」と警鐘を鳴らす。特に懸念されるのが、重症者の急増だ。自治体の発表を厚労省が集計したデータによると、11月18日は全国で重症者が2,800人に達し、「第2波」ピークの2,559人を超えた。緊急事態宣言が出ているた「第1波」ピークの3,228人には及ばないものの、感染から重症化までに2週間ほどの時間差があり、今後の増加ペースが続けば12月にも上回る可能性がある。



自ら「今日から徹底する」とも語り、同田厚と首相の会食した公明党の山口正義は、今春の緊急事態宣言は、今春の緊急事態宣言は、

感染者増に政府も危機感を示すが、打手は限定的で、国民の「自己防衛」に委ねる部分も大きい。

菅義偉首相が19日に国民に求めたのは、3密の回避など基本的な感染防止策の徹底だった。会食時間の感染リスクについて注

【音楽】佐藤木下一士  
に求めたのは、3密の回避など基本的な感染防止策の徹底だった。会食時間の感染リスクについて注意喚起し、飲食する時だけマスクを外し、会話をマスクを着用して行う「静かなマスク会食」を提案した。

えてきたが、その効力に陰りが見え始めている。

「いいところ」とが伝わってない」と無理を見せた。

ほんに必死に対応しているのに、政府は何の対策

で、陽性と判明する前に吸苦で酸素吸入が必要な状況へ至る。

後にしかわからない、通常の医療にも深刻な影響がある。

往来などを便す方針を継続する一方で、都道府県知事による宣傳告白の営業時間延長は次第に

者数は267人で、4月時点のピークの約6倍。介護施設や医療機関などでのクラスター（感染者集団）も目立つ。「酸素吸入が必要な人が入院する場所が無くなる懸念だ。医療従事者

規感染者数が過去最多を記録した。

更制の林急・災害医学は「危機管理」は極めて高い。今、警戒度呼びかけても結果は2週間

間を感救長回

策によって旅行による感染リスクは低減できる」と主張。加藤氏は19日の記者会見でも「考え方何らかの違いもない」とした。

ただ、政府の対策には大きな欠点がある。政府は人の往来を

首相「静かなマスク会食」訴え

感染者増に政府も危機感を示すが、打つ手は既定的で、国民の「自己防衛」に委ねる部分も大きい。

に国内経済が復んだとしても、同じ事態を繰り返さないとの考え方がある。首相周辺は「また自衛呼びかけたら飲食店が倒れる。経済を止めないやり方のとおりで対策するしかない」と語る。

状況を一臥床の状況に任せても日本はまだ大丈夫。療体制にも余裕はある。現状は想定内だ」とみる。本医師会が觀光支援策「感染拡大のきづかけとして、18日に掲載しても、加勝信富貴長官は「感染症防

止藤「」G 状況日は、分科会の尾身義会長によれば、会員で問われた西村吉彦は、「私は、分科会を引用しつつ「おれがおるかは神のみぞ知る」と。憲政民主党幹部は、首裡田を求めるのが「難かぬアバヤク」会食」といふあつたらしいが、じつは誤った。〔いつのことを説く〕

首相「靜」

かなマスク

會食

（経済再生相）との癡情が  
出でる。